

## 平成30年度 呉市復興計画検討委員会 第4回会議摘録

1 日 時 平成31年3月27日（水）10時～11時

2 場 所 呉市役所本庁舎 752～754会議室

3 概要・骨子

10:00

【市長挨拶】

呉市長の新原でございます。本日は年度末に押し詰まったなか、会議にご出席を賜りまして、本当にありがとうございます。間もなく豪雨災害から9か月が経とうとしております。国・県におかれましても砂防ダムなどの工事に着手していただいておりますし、呉市も道路・河川等の復旧工事に既に着手しているところでございます。

これら国・県・市の事業につきましては、工事の進捗状況を市民の皆さんにわかりやすくお伝えするために、2月の終わりから今週日曜日にかけて、公共土木施設等の災害復旧状況説明会を市内全域の20か所で実施いたしました。併せて、その内容については、ホームページにも掲載して、市民の皆さまにお示ししているところでございます。また、説明会では、市民の皆さんのご意見、ご質問、ご心配なことも伺ってきたところでございます。報道によれば、本日、国の予算が成立するようでございますけれども、その予算に従って、復旧工事の箇所付けが具体的に行われて、なお一層本格的にインフラ関係の復旧が進んでいくことになると思います。

こうした中で、大変ありがたいことに3月8日にクレアライン（広島呉道路）が、国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の一環として、減災のための4車線化の候補に入れていただきました。これも予算が成立すればさらに手続きが進むのではないかと期待しております。前回、委員からもご意見がありましたが、これは減災の効果が非常に高いものでございます。併せて、3月10日には休山新道の4車線化が実現し、すでに渋滞の少ない交通が確保されております。これらの道路の整備によって、呉市の交通環境は飛躍的に強靱化されることとなるものと思います。そのほか、被災者の方々、災害の仮設住宅、みなし仮設住宅等でお住まいの方々について、将来どうしていくのかということについても復旧の中で優先的に対応していかないとはいけませんし、その他の多くの課題がございます。

本日お示しする呉市復興計画（最終案）につきましては、前回の委員会で皆さんからいただいたご意見をできるだけ反映した形で修正を行い、市議会に報告して、この手続きの進め方についてのご意見もいただいておりますし、市民の皆さんのパブリックコメントも行いました。その内容については、今日の会議でご説明させていただきます。

それらを踏まえて呉市復興計画（最終案）について、ご確認いただき、必要があればご意見をいただいたものをさらにどのように盛り込んでいくかということもあり得るかと思います。いずれにいたしましても、本日が最終回ということで、いただいたご意見を基に最終案を市で決定させていただきます。明日、災害復興本部会議を開催して、最終決定させていただきます。公表させていただく予定でございます。

今日のご審議をよろしく願いますとともに、今後ともお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。以上でございます。

10:10

**【議題1】**

「呉市復興計画（最終案）について」に関する説明。

**委員からの主な意見は次のとおり**

- パブリックコメントの中に、特に市民の皆さんから砂防ダムに関する要望・質問が複数あるということで、改めて私も感じるがあった。これまでいろいろな社会基盤施設の中で砂防ダムというのは、非常に目立たない施設だったものが、こういう災害によって、市民が非常に自分の生活に直結する施設として、注目をされているという点を改めて感じた。

以前から感じていたことではあるが、砂防施設は、施設の整備をするのは県の責任でやっていて、一方で、その土砂災害警戒区域の自主防災組織を支援したり、避難訓練など、さまざまな防災行政を行うのは市であるという体制になっている。市民にとってみれば行政の区別は関係なく一体となっているものなので、今後、できるだけ県と市の防災部局が連携すべきだと思う。県も施設を作るだけではなく、ドローンでの空撮等で状況を確認するなど、自分の住んでいる上の溪流がどうなっているかということ映像で情報提供してほしいと思う。こういったことが早めの避難につながり、次の災害で被害が軽減する可能性もあるので、ぜひ市と県で連携して、こういった要望にどうやって進めていくかということを検討いただきたいと思う。

10:30

**【その他】**

**今後に向けた意見、全体を通じた感想など委員からの主な意見は次のとおり**

- 基本方針4の「今後の防災・減災に向けた取組」のところをしっかりとやっていただきたい。子どもたちの命を守るなど、ここが大事だと思う。
- 今回、復興計画案ができたが、今回、被害がなかった地域の再点検も含めてやっていただければと思う。河川の場合、特に安浦地区は、どこが決壊してもおかしくない地域がたくさんあると思う。どうしても被害があったところに注目すると思うが、全体を把握していただければと思う。
- 今回の計画に基づいて、今後いろいろな事業が進んでいくが、意識しなければならないことは、いろいろな記憶が風化していくことであり、これが一番怖いと思う。例えば防災教育、訓練など、記憶を風化させない定期的な取組をしていく仕組みも併せてやっていく必要があると思う。
- 天応地区を見ていると、砂防ダムは5つ計画されており、これを実行して、地域の安全・安心を確保していただきたい。

- 基本方針の4「今後の防災・減災に向けた取組」をこれから自治会としても市民の皆さんにしっかり浸透させていく。防災意識の向上に向けて、これから話をしていくと、いろいろな問題点が出てくるのではないかと思う。その点については、呉市とも相談しながら、前に進めていきたいと思うので、ぜひ協力をお願いしたいと思う。
- 中国地方整備局としては、河川、砂防、交通、港湾、あるいはまちづくり、住まいづくり、いろいろな関係でこれからも市と一緒にあって、復興に向けて頑張っていきたいと思っている。何かご不明なことがあれば、遠慮なく問い合わせさせていただきたい。一緒にあって、考えていきたいと思う。
- 被災された方にとって、地区計画という部分は非常に身近な課題になると思う。今回の災害で、やはり我々は自然環境と一緒に生活をしているということを含めて実感した。ゾーニングの話など、難しい面もあると思うが、少しでも新しいモデルが作れたらいいと思う。その中で、基本理念にもあるように、今までより、もっといいまちを作るといふところにつなげられたらと思う。
- 呉市には、まちづくり、あるいは防災に熱心な方がいて、今の地域の問題や今回の災害について、非常に真剣に、かつ現実的になんとかしたいというお話を伺った。この復興計画を基にそういう市民が、どんどん参加していただくことで、より実効性のある防災、あるいは、まちづくりができるのではないかと考えており、期待している。大学としても、何かあったら協力させていただきたいと思う。
- 安浦中央保育所が無事に今年度内に復旧した。年長児も笑顔で先週修了式を迎えることができた。一度被災した場所で保育を続けるということになるので、今後また何か起こったときのために、防災・減災についての学びを子どもたちも、大人も一緒に取り組みを続けていただきたいと思います。安浦のまちも、呉市も今後災害に強いまちになることを期待している。
- この災害のことを忘れず未来につなげていくことが大切だと思うので、例えば災害の起こった7月6日、7日に、セレモニーを呉市でやるとか、そういう行事があってもいいと思う。
- 本当にいいものができたと思う。附属資料に都市の事例がふんだんにあるということと、学生の提案があり、非常に興味を持った。いかに他都市の事例や学生の提案に近づけていくかというのが、今後の課題だと思う。
- 今後の復旧・復興に向けては、市・県・国が三位一体で取り組んでいく必要があることから、県も今回の人事異動、組織改編で、災害からの復旧・復興に向けて体制を強化し、職員も92名増員し、市や町への派遣職員も増やして継続した体制で復旧・復興に当たるということになっている。併せて、被災者の再建についても地域支え合いセンターの設置や市、町への支援、サポートをしっかりとやっていくという体制も整えた。加えて、危機管理監の組織を改編して強化し、市、町の防災体制の支援も全力で取り組んでいきたいと思う。

- まず客観的に今回の呉市の復興計画に関して、呉市が頑張ったのは、広島呉道路の4車線化だと思う。災害時BRTなどのネットワークの強化の必要性は、検討委員会の中でも議論をしてきた。それに対して呉市が、国に働きかけて、事業採択に至ったのは、呉の将来にとって、非常に明るい、大きな意味を持ちうるものだと思う。

一方で、地域に寄り添う計画づくりということに関しては、井戸の話も出たし、いろいろな議論も出ている。この委員会とは別にワークショップということを熱心に進めてきており、そちらでは、地域に寄り添う形での議論が非常に進んでいるように思う。

防災に関する意識が、今一番高くなっている状況なので、災害が多く起こりがちな呉において、このタイミングでどうやって、防災・減災の意識をみんなで醸成していただけるか、次年度へ引き続き、地区の計画づくりをきっちり進めるということが大事ではないかと思う。

災害時にボランティアの方々との関係や、地域の方々自身が助け合うことができているので、そういった方々と計画を一緒に作っていく。

ぜひ、そうした進め方で、呉市役所、地元の方々と一緒に、事業を動かしていくように進めていただくということが、私からお願いしたいことだ。

#### 【市長発言】

- 委員の皆さんから、非常に大事な点をご指摘いただいたと思います。

砂防ダムは、これまで非常に地味だったというお話が出ました。私は災害の後に現場に何箇所か行きましたし、医師会や女性会、自治会の皆さんと十数か所で、議論させていただきました。それから、国・県・市のインフラについての説明会に2か所出席しました。地域の方々からは、災害の後に現地に行ってみると、下の方では家はなんともないが、上の方の砂防ダムがいっぱいになっているので、一緒に行ってくださいと言われ、現地に行ったりしました。

地域の方々は、日頃からずっと歩き、何回も見て、砂が一杯になっているので、機能しないのではないかとずっと言い続けてこられており、日頃から関心がないわけじゃないということだと思います。

それで今回、インフラの説明会について、県・国も協力していただきながらやったのですが、私の感じでは、一生懸命連携してやっているのですが、市民の皆さんにわかりやすく納得ができるような説明がなかなかできていないことを感じました。

県もこのたびの対策を一生懸命整えていただいているので、その辺をうまく市民の方に見える化というか、丁寧にわかってもらえるようにします。

それからワンストップで皆さんのご意見を国・県の事務所に行っても、市役所に行ってもわかるようにするというのは、大きなテーマではないかと感じました。

被害のなかったところも丁寧にこれから見てほしいというお話がありました。これも非常に大事なことだと思います。ただ、それがどの程度できるかについては、検討いたします。

それともう1つ、東京大学の案が非常に素晴らしいというお話がありましたが、例えば道路がないといけなとか、土地の持ち主と家の持ち主で権利関係が違ったり、不在地主だったりとか、それから土地に対する考え方に、色んなお気持ちがあるので、実際に東大の案を現実に運用していこうとすると様々な条件があります。また、どのくらい急ぐかという時間の面もあるので、ワークショップでもご議論はされると

はと思いますが、担当者からそういう制約があると聞いています。

最後に、この委員会でご高見をいただきまして本当にありがとうございました。最初にも申し上げましたが、今後、呉市災害復興本部会議を開催して、その開催と同時に私が呉市復興計画を決定し、公表させていただきたいと思います。今後とも、災害に強い、幸せで魅力的な都市を目指して1日も早い復旧・復興を進めていきます。

なお、引き続き、天応・安浦地区の地区計画策定に向けて検討委員会を引き続き開催させていただきたいと思いますので、今後とも委員の皆さんには、この委員会を続けてお力添えをいただきますようお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

以 上

11:00  
会議終了